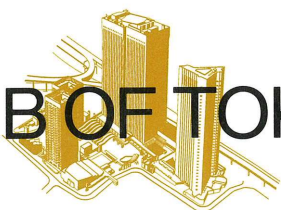




THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

ROTARY: MANKIND IS OUR BUSINESS

「ロータリー：人類が私たちの仕事」

2001～2002年度・国際ロータリーテーマ／リチャード D. キング会長

「ロータリーの心を伝えようー家庭に、職場に、地域にー」

2001～2002年度・東京新南ロータリークラブテーマ／大日方 真会長

本日の例会 9月6日(木) 第715回例会
第2750地区加来浩二ガバナー公式訪問
卓話「公式訪問に際して」

第2750地区ガバナー 加来 浩二 氏
(東京築地RC)

東京南・東京新南合同例会 [会場/東京會館]

ガバナー・会長・会長エレクト・幹事懇談会

(11:00～12:00)

加来 浩二氏 プロフィール

生年月日 1926年6月8日

現住所 東京都練馬区旭町2-7-8

勤務先 東京都中央区銀座1-23-9

国際紙パルプ商事株式会社

略歴 1948年4月 日本パルプ工業株式会社入社

1972年6月 取締役就任

1973年3月 大永紙通商株式会社入社

1989年6月 取締役社長就任

1997年6月 取締役会長就任

1999年10月 国際紙パルプ商事株式会社相談役就任

ロータリー歴 1983年9月 東京築地ロータリークラブ入会

1997年～98年 同クラブ会長

1999年～00年 千代田区分ガバナー補佐

ポール・ハリス・フェロー

ベネファクター、米山功労者



8月31日/18件36,000円
2001～2002年度累計301,000円
多額の御寄付を有難うございました。

大日方真/前川ガバナー補佐、井出グループ幹事、本日は有り難うございました。これで会員増強にいっそう弾みがつくと思います。新保國彦/前川ガバナー補佐、井出グループ幹事の公式訪問を歓迎して。馬場一廣/前川ガバナー補佐、井出グループ幹事、ご苦労さまです。青野信次/前川ガバナー補佐に敬意を表して。荒木さんご苦労さまです。入沢頼二/井出グループ幹事とは幹事の同期生で、久ぶりにお目にかかります。ご活躍を祈ります。山下忠治/パスで1カ月間過ぎました。皆出席12年になりました。小波雅亮/急患でクラブ協議会欠席しました。川鍋二郎/久ぶりの例会出席のためかバッチを忘れました。岩上義明/欠席続きで申し訳ございません。夏休みも終わり、これから頑張ります。岩瀬秀郎/夏も終わりです。山川政樹・柴田陽三・土屋東一・四分一勝・福島賢哉・石井謙次/荒木さんニコニコご苦労さまです。二宮利泰/荒木さん、山川さん、お元気で何よりです。荒木昭久/皆様ニコニコご協力、有り難うございました。

紙面の都合でコメントを一部纏めさせて頂きました。

次週予告 9月14日 第716回例会
第2回クラブセミナー 「15周年記念行事」
[例会場/ローズルーム(3F)]

◎ガバナー補佐公式訪問・第2回クラブ協議会 テーマ「会員増強、退会防止」

(とき) 2001年8月31日(金)

例会前 11:00-12:00

(ところ) 東京全日空ホテル
36階 マーキュリー

(出席者) 来賓:

前川和義ガバナー補佐、

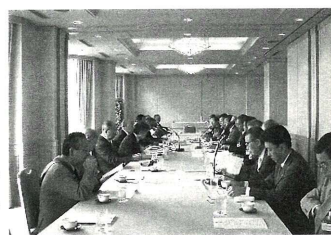
井出義裕グループ幹事、

会員24名:

青野、荒木、馬場、福島、市川、入沢、石井、清原、小杉(眞)、

西澤、大日方、尾上、大山、柴田、島田、新保、高須、武下、

谷村、山川、山根、吉田(用)、吉岡、荻野(順不同、敬称略)



先週報告 8月31日 第714回例会

◎ 会長報告

本日は例会前に、前川和義ガバナー補佐、井出義裕グループ幹事をお迎えして、第2回クラブ協議会を開催することができました。皆様のご協力に対しお礼申し上げます。引き続き例会にもご出席頂きました。

◎ 幹事報告

① 9月定例理事会は、第2週の9月14日(金)開催致します。

② 2001-2002年度版「R全国会員名簿」が届いております。

◎ 職業分類委員会報告(佐々木委員長)

本日お配りした「クラブ活動計画書」の職業分類表をRI規定審議会で決定された事項に基づき改定しました。

◎ 会報委員会報告(福島前委員長)

2000～2001年度週報のCD-ROMが完成しました。(事務局保管)

◎ 慶事披露 100%出席祝/山下忠治君(12年)

◎ 出席報告 会員69名・出席41名・欠席28名(出席規定免除者6名)

ビジター6名、ゲスト1名(米山奨学生の党偉栄さん)

1. 開会挨拶

会長 大日方 真

今年で当クラブも15周年を迎えます。国際ロータリーも大きく変わりつつあります。

キングRI会長が掲げる「人類が私たちの仕事」というテーマを実現するためには、もっとロータリーの力を強くする必要があります。「ロータリーの全世界での探求」というのは、会員増強を目指したものです。当クラブでも、会員増強とともに退会防止のためのあらゆる方策を実行することが必要でしょう。

2. 会員増強の取組み

会員増強委員長 吉岡 琢磨

会員増強はロータリーにとって永遠のテーマです。会員が増加すれば、多くの奉仕ができ、クラブの活性化、情報交換、ビジネス・チャンスも増大し、親睦の輪も広がります。ところが、この10年間に会員数は78名から69名に減少しています。こうし

た状況は、①長いキャリアをもつ会員の減少、②新会員の定着率の悪さ、によって生じているわけですから、それへの対応が必要でしょう。これまで同業種に1人という枠が、これからは会員が51名以上のクラブでは10%、当クラブでは7名まで認められます。「入会時に誰が貴方に声をかけてくれたか」をもう一度思い出して、適切な人物を積極的に探して欲しいと思います。

3. 退会防止

クラブ奉仕、総力をあげて クラブ奉仕委員長 谷村 義雄

本年度の重要テーマは、会員増強・退会防止です。その目的達成とロータリー活動を「楽しみながら学ぶ」という見地から、各委員会の横の連携を密にする必要があります。現有勢力は69名ですが、それを維持・拡大してくためには、入会時にロータリーに関しての説明を充分する一方、入会した人を辞めさせないようにすることが重要です。そのためには、例会を楽しくする努力をしなければなりません。

親睦活動と出席

親睦活動委員長 清原 元輔
出席委員長 高須 康有

清原委員長：ロータリー活動の基本は例会における親睦です。そのためにはクラブが明るく、楽しく、活き活きしたものでありたいと思います。退会防止の具体的なものとしては、新会員のご家庭に、入会した月にバラの花束を贈ることを復活し、歓迎の意を表するほか、忘年家族会を実施します。例会以外では「火曜会」「友もあ会」などの親睦の一方で、「ロータリー研究会」によって、その原点も知るべきでしょう。

高須委員長：例会出席率の向上を目指します。そのため①出席状況を把握し、欠席しがちな会員には出席を促す、②例会以外の委員会、親睦会などへの出席率向上にも努めるほか、皆様から親しく声をかけて誘いあってもらおうと共に、出席環境を良くするムード創りも必要です。

例会充実

プログラム副委員長 市川 徹
SAA 西澤 正雄

市川副委員長：ロータリー活動の基本は例会にあり、その後半30分を担当しているのだから、プログラムを如何に魅力的なものにするかが重要です。例会が「楽しく」、「意義深く」、「自己啓発」につながるようなテーマを選択するため、他の委員会との連携や多くの会員の方々にも、適切な卓話者を推薦して頂きたい。

西澤SAA：明るく、楽しい中にも品位ある例会運営をするため、当クラブの良さ伝統を尊重しながらも、会員の意思をよく汲み上げ、時世に即した新しい工夫、改善にも心がけていきたい。

情報交換、全員参加

クラブ会報委員長 小杉 眞史
友もあ会 石井 謙次

小杉委員長：世の中の激しい変化に対応するため、見易く、読みたくなる会報の作成に努力しています。このため①全会員から投稿を頂き、「めんぼう」の名のもとに会員の声を掲載すること、②広報委員会と連携し、ホームページを立ち上げること、③パソコンでの原稿作成、Eメール習熟を、事務局のパソコン等を活用して委員が中心となって啓蒙すること、などです。

石井会員：この会は当クラブに入会して3年未満の会員を対象とした親睦会で、年3回程度を目途に開催されます。通常の例会とは異なり、お酒も入ってリラックスした雰囲気の中で会話できることから、「火曜会」ともども長く続けていきたい。

ロータリーを知る

ロータリー情報副委員長 荒木 昭文

ロータリーを良く知ってもらうために、①入会候補者に対して詳しい情報提供をすること、②入会3年未満の会員に対する炉辺談話式の情報提供、③新会員にカウンセラーを付けているが、必ずしも充分機能していないケースもあるので改善の余地があること、などから、地道な活動をしていきたいと思います。

4. 講評

ガバナー補佐 前川 和義

会員増強委員長の決意に力強さを感じました。会員増強・退会防止については、各クラブともいろいろと悩みを抱えている

2頭立てのロータリー

神戸クラブの会員でバストガバナーでもあり、生前、ロータリーのために多くの貢献をされた平島健次郎さんは1987年春、第252地区の年次大会で討論会に出席された際、次のような発言をされた。



「ロータリーの活動の主体は、ロータリークラブ又はロータリアン個人であって、R Iではない筈です。R Iの役割は、ロータリーのためにクラブを育成、助長する事です。ここ10年来、ロータリーは大きく変貌しましたが、その原動力は財団の急激な肥大化にあったと私は思います。昔は財団はR Iの中で小規模の存在で、表面に見える活動もしていませんでした。1947年ポール・ハリスの没後、始まった奨学生制度が財団の新時代を画したのですが、それでも1965年に年間寄付額が、初めて100万ドルに達した程度でした。それが1986年度(1985-86)の寄付額は実に3000万ドルを越えています。いかに財団が急激に膨れあがり活動のスケールも巨大になったか、お分かりでしょう。現在のロータリーを見ていると、R Iと財団が両立し、2頭立てになっているかのような錯覚さえ感じるのです。」

100年に近いロータリーの歴史の中で、最も大きな変貌は財団の肥大化と事業の大型化であるとは、私がかねてから感じていたことである。

財団の肥大化は国連WHOとの連携が契機になっているように思われる。1978年にR Iが自ら〈3H〉(HEALTH, HUNGER, HUMANITY)プログラムを提唱し、全世界のロータリアンとクラブから一定額の拠金を求めたが、世界の約60%のロータリアンの拒絶を受け、実行できなかった。特定事業を提唱し実行する事はR Iの役割ではないとの理由からであった。やむなくR Iは1980年にこの〈3H〉を財団に引き受けさせ、今に至っているのである。

また、財団はWHOとの協議のもとに、巨大なくボリオ・プラスプログラムを提唱し、ロータリアンの一部では、昔の“I serve”か“We serve”かと云う議論が一時復活したものであった。ボリオ・プラスの募金活動は1988年に2億2000万ドルという成果を持って一応終了した。1989年春、私はガバナーノミニとして同僚ロータリアンと共にアリゾナ州フェニックスの国際協議会で次年度ガバナーとしての研修を受けた。次年度R I会長のヒュー・アーチャーさんが掲げた会長テーマは「ロータリーを楽しもう」「ENJOY ROTARY」であった。アーチャーさんは私達を前にして云った。「ボリオ・プラスプログラムは重要な、意義ある事業です。皆さんの絶大なご協力に感謝します。今や、募金活動は終了しました。皆さんは皆さんの地区、皆さんのクラブに戻って、平常のロータリー活動、小さくても心の通う奉仕の活動に戻ってください。「ENJOY ROTARY!」ああ、この会長は分っているのだ、と私は思った。そして、よいテーマを喜んだのである。

点は共通しています。その対応策として、東京南クラブの例を紹介しますと、全会員からのアンケートにより入会希望者を募集し、それに基づいて新会員を開拓している、とのことでした。一方、魅力あるクラブづくりということでは、「友もあ会」などは大変結構なことだと思います。また、各ガバナー賞、R I会長賞などの獲得を目指して挑戦しては如何でしょう。

5. まとめ

会長 大日方 真

厳しい経済情勢だけに、いろいろと困難な問題はありますが、会員増強、退会防止はクラブにとっての最重要課題だけに皆さん一致協力して頑張ろうではありませんか。

東京新南ロータリークラブ

〔会長〕大日方 真 〔副会長〕谷村 義雄 〔幹事〕新保 國彦

〔会報委員長〕小杉 眞史 〔今週の担当〕荻野 道雄

事務局／〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階 TEL: 03-3505-5976 FAX: 03-3505-6004 new-south@h9.dion.ne.jp
例会日・例会場／毎週金曜日 12時30分 東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL: 03-3505-1111